LUC2026　現場AI Summit　|　2026.9.17

ミニミニが実践する、
コミュニケーション活性化から社内ノウハウの動画活用まで

―現場を動かす「活用と実践」のリアル―

ミニミニ　　二村和紀（総務部）

ABOUT US

ミニミニグループについて

事業概要と店舗網

不動産仲介業を中核に、賃貸管理・売買・リフォームなど住まいの総合サービスを展開。

- 全国**約500店舗**のネットワークを展開
- グループ全体で**従業員1,000名以上**
- 地域密着のスピード対応と接客力を強みとする

社内コミュニケーション基盤

現場発の業務迅速化を目的にビジネスチャット「direct」を導入し全社定着。

- 導入から数年で**全国ほぼ全社へ浸透**
- 営業・店舗・本部間の連絡を完全ペーパーレス化
- チャットを土台とした次世代DX推進へ進化中

SPEAKER

登壇者紹介



二村 和紀

株式会社ミニミニ 総務部 業務効率化推進担当

【direct／AI活用との関わり】

SaaSツールの選定から現場導入・定着までを一貫して担当。現場の生の声と業務課題を拾い上げ、確実な改善へつなげてきました。

【本日のメッセージ】

「directは数年、AIは昨年から本格着手。『現場とデジタルの橋渡し役』としてリアルな活用と実践をお伝えします。」

AGENDA

本日お話しすること

Part 1

コミュニケーション活性化と社内ノウハウの動画活用

・direct導入の歩み（導入～全社展開）

・ 全社展開後に見えてきた課題

・ 掲示板＆一斉通知、ナレッジ動画の活用

・得られた効果

Part 2

AIで現場を動かす実践（独自開発とシステム統合）

・AI活用の背景

・AI活用シーン①

・AI活用シーン②

・効果・今後の展望

PART 1

コミュニケーション活性化と社内ノウハウの動画活用

BEFORE

direct活用の歩み

導入から全社展開～新たな取り組みへ

STEP 1

direct利用スタート

営業と事務、店舗内の日常連絡ツールとして利用開始

STEP 2

direct全社展開

全国500店舗・1,000名へ浸透

STEP 3

新たな課題

トーク活発化に伴い「重要通達が埋もれる」「研修マニュアルが見られない」壁に直面。

STEP 4

Apps・動画に挑戦

1. 情報伝達の整理
掲示板＆一斉連絡を活用

2.社内ノウハウを動画活用するためナレッジ動画を導入

STEP 5

AI活用に挑戦

独自システムをAI開発し、すべての業務通知窓口を「direct」に集約する
次世代DXへ。

BEFORE

direct全社展開後に見えてきた課題

! 重要通達のフロー埋没（情報伝達）

チャットのやり取りが活発なため、本部やプロジェクトからの全社通達がトークの流れに埋もれてしまう。

! PC限定の閲覧制限（アクセス性）

従来の通達用システムはPC限定で、店舗のスマホから即座に確認できない。

! テキスト資料の不読（ノウハウ共有）

研修や勉強会の内容を文字・PDF資料化しても、多忙な現場では見られない・読まれない。

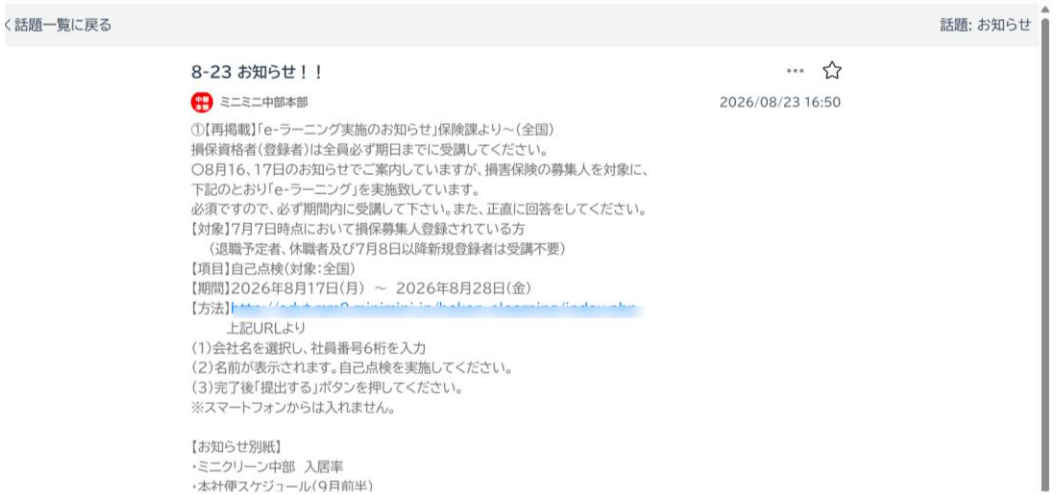
「トーク」だけでは、会社全体の重要方針や業務ノウハウを確実に届けることが難しかった

direct ダイレクト （掲示板・一斉連絡）の利用へ

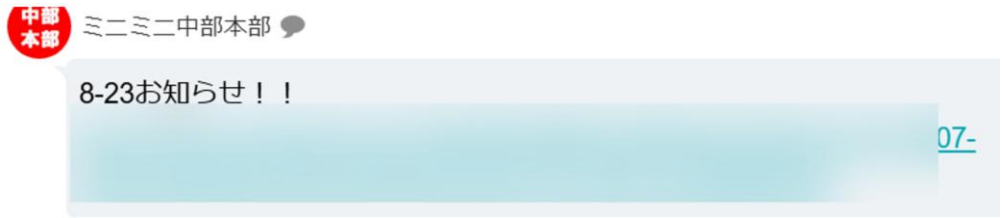
USE CASE

direct（掲示板・一斉連絡）の利用

direct Apps 掲示板



direct 一斉連絡



流れない「掲示板」＋ 気づかせる「一斉連絡」

- **投稿の使い分け**
  通達のある部署・プロジェクトチームから全社員向け／関係者向けに使い分け
- **投稿URLの一斉連絡**
  掲示板に書いた重要通達のURLを「一斉連絡」でトークにプッシュ送信し、見落としを防止。
- **スマホでどこでも確認**
  PCだけでなく店舗のスマホから確認可能になり、情報伝達スピードが改善。

IMPACT

direct（掲示板・一斉連絡）の効果

“

- スマホで見られるようになったので確認がしやすい
- 一斉連絡のURLから簡単に通達が見られるのがいい

“

- 総務以外の部門からも話題が作成でき、総務へ依頼せず通達を流せるのがいい
- 全社向け（基本1日1回）とは別に、好きなタイミングで通達を流せるのがいい

過去投稿も見返しやすくなり検索性が向上
（全社員の閲覧状況の可視化・文書検索は今後の課題）

USE CASE — KNOWLEDGE VIDEO

社内ノウハウの動画活用（ナレッジ動画）

なぜ動画で残すのか

研修・勉強会の内容を資料にしても
見られない・読まれないという課題があり、
動画であれば見返してもらいやすいと考えた

どう使っているか

研修・勉強会の復習用
新システムの操作学習・新入社員教育用
障害者雇用スタッフの働く様子の紹介など、
採用活動の補助にも活用



IMPACT — KNOWLEDGE VIDEO

ナレッジ動画活用の効果

研修の振り返りに

オンライン研修の振り返りや、
説明を受けた使い方の復習に活用

32本
（93本）

蓄積された動画本数
（ミニミニのみ）
グループ会社も含めると100本弱

500店舗
全国全店への共有

全国均一なノウハウ普及
指導者によるバラつきがなくなり、
質の高い教育コンテンツを一元共有。

PART 2

AIで現場を動かす実践

WHY AI

AI活用に取り組む背景

1

以前からの課題だった通知の分散を、directへの通知集約でまず解消

2

情報伝達だけでなく、
グループ会社ごとに異なるワークフロー・スケジューラーなどツールの分散も課題に

3

所属会社が違ってもデータが一箇所に集約され不便なく使える仕組みを目指し、
AIを活用したシステム開発を今年から推進中

AI活用シーン ①

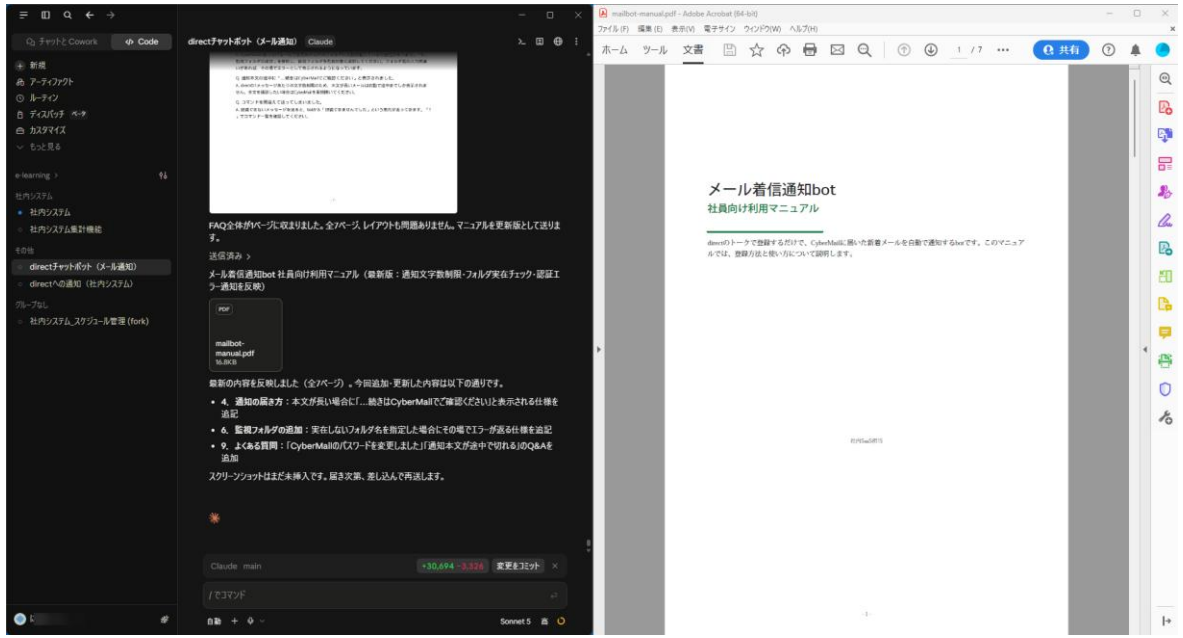
Claude Codeによる統合システム開発



ワークフロー・スケジューラー・
共有データ管理などを一元化する
社内システムを開発中
Claude Codeを活用し、コーディングなど
開発工程のほぼ全般をAIと進めている
（現在はリリース前の開発段階）

AI活用シーン ②

Claude Codeによるマニュアル作成



開発中システムのマニュアル作成にも
Claude Codeを活用
コーディングと合わせて、ドキュメント整備
まで一貫してAIとともに進める体制に

IMPACT & NEXT

AI活用の効果と今後の展望

効果

通常なら1週間〜1か月かかる開発が、
Claude Codeの活用で
ベース作成まで3日足らずに短縮

今後の展望

インフラ整備が整い次第リリース
愛知でまず展開し、その後全グループ会社へ
法律が強く関わる部分以外は、
社内の困りごとをもとに継続的に開発・リリース
開発システムの通知は、
すべてdirectのbotに集約予定

SUMMARY

現場を動かすのは、ツールではなく「活用と実践」
「分散」から「集約」へ ― 情報もツールも、directでひとつに

1

分散していた通達を掲示板に集約し、気づきやすさと検索性を両立

2

「見られない資料」を動画に変え、ノウハウを組織の資産に

3

AIでツールを統合し、その通知も最終的に**direct**へ集約していく

Thank you

ご清聴ありがとうございました

ミニミニ　　二村和紀